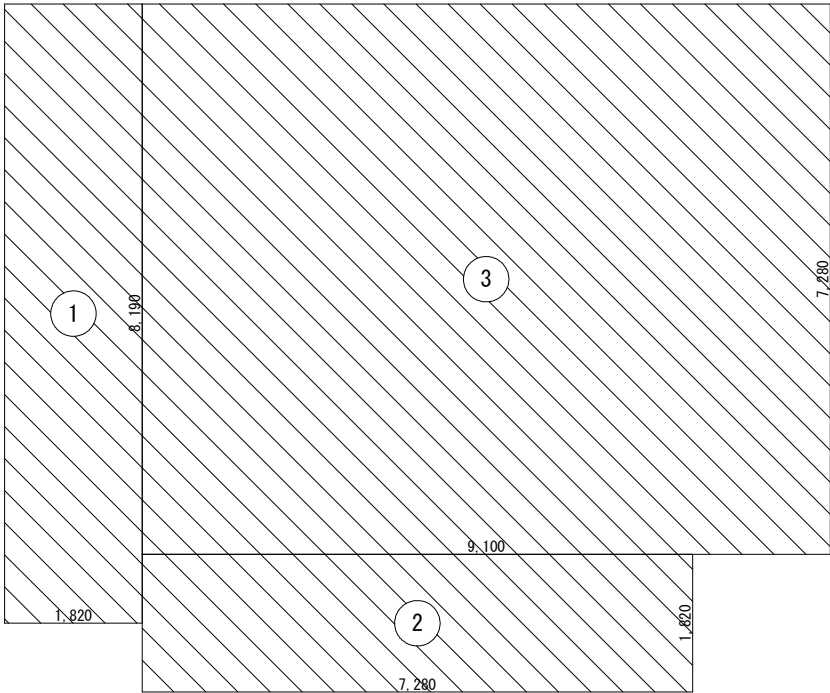
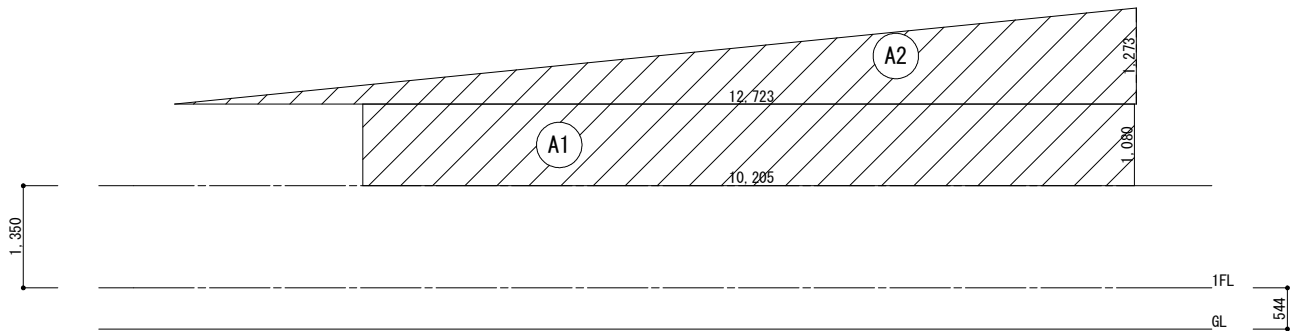


建物諸元	
建物名称	スタイルデザイン（平屋）様新築工事
平面単位モジュール	910.0
階数	1
屋根	重い屋根
多雪区域	外
地震地域係数 Z	1.0
基準法の床面積 m ²	94.41
延床面積 m ²	94.41
性能表示の壁量計算用床面積 m ²	94.41
屋根勾配	0.05
立面上の屋根厚さ	180.0
階高 mm	2751.0
軸組階高 mm	2790.0
目標等級	
耐震等級(倒壊防止・損傷防止)	2
耐風等級	1
耐積雪等級	—



1 階床面積算定図(基準法)

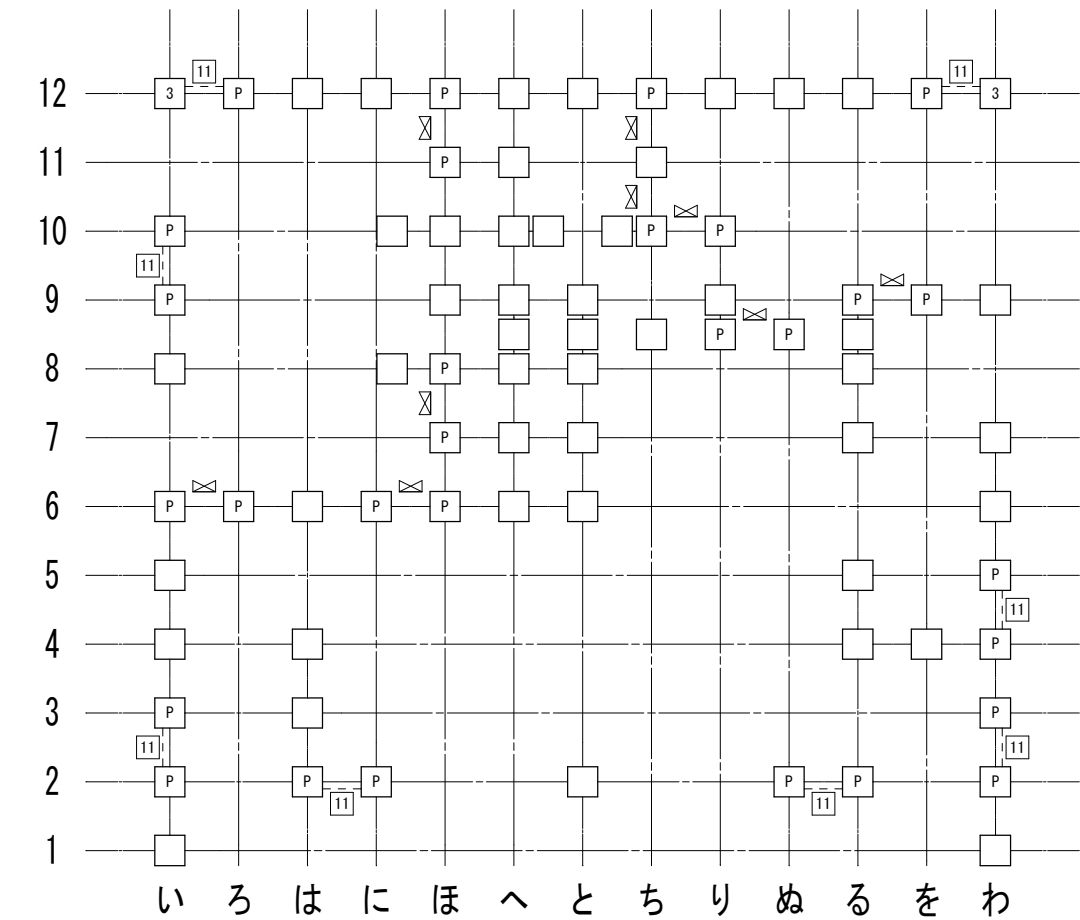


X 方向(東面)見付面積算定図

床面積表				単位 m ²
階		面積		計
1	①	1,820×8,190	14,905,800	94.41
	②	7,280×1,820	13,249,600	
	③	9,100×7,280	66,248,000	

見付面積表					単位 m ²	
方向	階		面積		計	累計
X	1	A1	10,205×1,080	11,021,400	19.12	19.12
		A2	12,723×1,273÷2.0	8,098,190		
Y	1	A1	11,115×1,278	14,204,970	26.22	26.22
		A2	11,175×1,075	12,013,125		





1 階柱壁伏図

性能表示必要壁量算定表					単位	m
床面積(地震力)に対する必要壁量						
階	方向	床面積	乗ずる数値	必要壁量		
1	X Y	94.41	0.232	21.904		

床面積(地震力)に係る条件	
■ 壁・屋根の重量が重い建築物(土蔵造、瓦葺等)	
□ 屋根の軽い建築物(金属板、スレート葺等)	
地震地域係数 Z 1.0	
□ 多雪区域	
□ 勾配低減	
Rf=2階床面積/1階床面積=0.000	
K1=0.4+0.6Rf=0.400	
K2=1.3+0.07/Rf (Rfが0.1より小さい場合2.0)=2.000	
1 階乗ずる数値=0.580K1	
2 階乗ずる数値=0.250K2	

性能表示存在壁量算定表						単位	m
階	方向	壁量	準耐力壁等壁量	存在壁量			
1	X	32.396	0.000	32.396			
	Y	28.756	0.000	28.756			

性能表示壁量判定表						単位	m
階	方向	存在壁量	耐震				
			必要壁量	判定	壁余裕度		
1	X	32.396	21.904	OK	1.47		
	Y	28.756	21.904	OK	1.31		

接合部凡例					*接合部凡例はユーザ設定されたものです。		
記号		仕様		N	倍率		
(い)		短ほぞ差し、かすがい打ち		0.00			
(ろ)	N	長ほぞ差し込み栓打ち			0.70		
(ろ)	L	L字型金物		0.65	0.70		
(は)	V	V字型金物		1.00	1.00		
(は)	T	T字型金物			1.00		
(に)	P	羽子板ボルト		1.40	1.40		
(に)	I	短冊金物			1.40		
(ほ)	Ps	羽子板ボルト+スクリーナ釘50		1.60	1.60		
(ほ)	Is	短冊金物+スクリーナ釘50			1.60		
(へ)	2	10KN用引き寄せ金物		1.80	1.80		
(と)	3	15KN用引き寄せ金物		2.80	2.80		
(ち)	4	20KN用引き寄せ金物		3.70	3.70		
(り)	5	25KN用引き寄せ金物		4.70	4.70		
(ぬ)	32	15KN用引き寄せ金物×2		5.60	5.60		
(る)	J1	腰掛け蟻若しくは大入れ蟻掛け+羽子板ボルト、短冊金物			1.90		
(を)	J2	腰掛け蟻若しくは大入れ蟻掛け+羽子板ボルト、短冊金物×2			3.00		

筋かいの種類に応じた筋かいの端部の接合部の仕様		
	筋かいの種類	接合部の仕様（構造方法）
イ	鉄筋φ9	柱又は横架材を貫通し、三角座金を介してナット締め、又は鋼板添え板を用い鋼板を柱及び横架材にCN90, 8本平打ち
ロ	筋かい:15×90	柱・横架材を欠き込み、柱・横架材双方に対してN65, 5本平打ち
ハ	筋かい:30×90	鋼板添え板t=1.6mmを筋かいに対してボルトφ12及びCN65, 3本平打ち、柱に対してCN65, 3本平打ち、横架材に対してCN65, 4本平打ち。筋かいプレートBP同等品
ニ	筋かい:45×90	鋼板添え板t=2.3mmを筋かいに対してボルトφ12及びスクリーナ釘φ4.5L50, 7本平打ち、柱及び横架材に対してスクリーナ釘φ4.5L50, 5本平打ち。筋かいプレートBP-2同等品
ホ	筋かい:90×90	柱又は横架材にボルトφ12mmを用いて一面剪断接合

胴差と通し柱の接合部の仕様		
	胴差と通し柱の条件	仕口
T1	通し柱の片側に胴差が来る場合	胴差を柱にかたぎ大入れ短ほぞ差しの上、羽子板ボルト、かね折り金物又は同等以上の仕口
T2	通し柱の両側に胴差が来る場合	胴差を柱にかたぎ大入れ短ほぞ差しの上、短冊金物又は、同等以上の仕口で胴差相互を緊結
T3	通し柱と胴差の接合部の近くに90×90以上の筋かいが来る場合(通し柱が建物の出隅にあるか、筋かい壁が外壁と直交して接する場合)	胴差を通し柱に、15KN用引き寄せ金物を水平に用いて緊結

